

貸借対照表

(平成28年3月31日現在)

(単位：千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流動資産	4,400,917	流動負債	1,962,866
現金及び預金	2,333,392	買掛金	33,200
売掛金	569,513	短期借入金	200,000
商品	26,073	1年内返済予定の長期借入金	50,000
貯蔵品	1,248	リース債務	14,522
前払費用	25,032	未払金	1,312,643
未収入金	1,051,775	未払費用	39,702
短期貸付金	250,000	未払法人税等	202,512
繰延税金資産	204,654	未払消費税等	48,243
その他	27,349	前受金	37,910
貸倒引当金	△88,122	販売促進引当金	20,014
		その他	4,118
固定資産	6,200,102		
有形固定資産	204,834	固定負債	67,337
建物	118,832	リース債務	57,533
工具器具備品	14,551	長期未払金	5,791
リース資産	71,450	預り保証金	4,012
無形固定資産	62,409	負債合計	2,030,203
のれん	9,358		
ソフトウェア	33,721	純資産の部	
ソフトウェア仮勘定	5,616	株主資本	8,590,816
電話加入権	13,436	資本金	490,000
その他	277	資本剰余金	4,410,765
投資その他の資産	5,932,858	資本準備金	315,134
投資有価証券	482,991	その他資本剰余金	4,095,631
長期貸付金	5,086,250	利益剰余金	3,690,050
差入保証金	102,396	その他利益剰余金	3,690,050
破産更生債権等	9,345	繰越利益剰余金	3,690,050
繰延税金資産	260,465	評価・換算差額等	△20,000
その他	754	その他有価証券評価差額金	△20,000
貸倒引当金	△9,345	純資産合計	8,570,816
資産合計	10,601,020	負債及び純資産合計	10,601,020

損益計算書

〔 自 平成 27年 4月 1日
至 平成 28年 3月 31日 〕

(単位：千円)

科 目	金 額	
売 上 高		4,795,026
売 上 原 価		2,162,926
売 上 総 利 益		2,632,099
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		1,588,396
営 業 利 益		1,043,703
営 業 外 収 益		
受 取 利 息	82,597	
有 価 証 券 評 価 益	129,284	
受 取 設 備 利 用 料	5,240	
そ の 他	661	217,784
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	3,497	
そ の 他	713	4,210
経 常 利 益		1,257,277
特 別 利 益		
事 業 譲 渡 益	250,000	
そ の 他	9,105	259,105
特 別 損 失		
固 定 資 産 除 却 損	8,652	8,652
税 引 前 当 期 純 利 益		1,507,729
法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税	188,595	
法 人 税 等 調 整 額	38,516	227,112
当 期 純 利 益		1,280,617

株主資本等変動計算書

(自 平成 27 年 4 月 1 日
至 平成 28 年 3 月 31 日)

(単位：千円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金		資本剰余金合計	利益剰余金	
		資本準備金	その他資本剰余金		その他利益剰余金	利益剰余金合計
					繰越利益剰余金	
平成27年4月1日残高	1,257,550	315,134	3,328,081	3,643,215	3,507,368	3,507,368
事業年度中の変動額						
剰余金の配当	—	—	—	—	△1,097,934	△1,097,934
当期純利益	—	—	—	—	1,280,617	1,280,617
無償減資	△767,550	—	767,550	767,550	—	—
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	—
事業年度中の変動額合計	△767,550	—	767,550	767,550	182,682	182,682
平成28年3月31日残高	490,000	315,134	4,095,631	4,410,765	3,690,050	3,690,050

	株主資本	評価・換算差額等		純資産合計
	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額等 合計	
平成27年4月1日残高	8,408,134	△39,500	△39,500	8,368,634
事業年度中の変動額				
剰余金の配当	△1,097,934	—	—	△1,097,934
当期純利益	1,280,617	—	—	1,280,617
無償減資	—	—	—	—
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)	—	19,500	19,500	19,500
事業年度中の変動額合計	182,682	19,500	19,500	202,182
平成28年3月31日残高	8,590,816	△20,000	△20,000	8,570,816

個別注記表

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

市場価格のあるもの…………… 決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

市場価格のないもの…………… 移動平均法による原価法を採用しております。

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

商品…………… 総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

貯蔵品…………… 先入先出法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

(3) 固定資産の減価償却の方法

①有形固定資産(リース資産を除く)

定率法(ただし、取得価額が 10 万円以上 20 万円未満の資産については、3 年間均等償却)によっております。なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物	6 年～18 年
工具器具備品	2 年～15 年

②無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(主として 5 年)に基づく定額法によっております。また、のれんについては、5 年間の定額法により償却を行っております。

③リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。なお、リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成 20 年 3 月 31 日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(4) ヘッジ会計の方法

①ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。なお、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては、特例処理を採用しております。

②ヘッジ手段とヘッジ対象

借入金利息の変動リスクをヘッジするために、金利スワップを利用しております。

③ヘッジ方針

主に金利変動リスクを回避するためにデリバティブ取引(金利スワップ)を行い、投機目的のデリバティブ取引は行わない方針であります。

④ヘッジ有効性評価の方法

金利スワップ取引については、特例処理の要件を満たしているため、ヘッジの有効性の評価を省略しております。

⑤その他リスク管理方法のうちヘッジ会計に係るもの

デリバティブ取引の管理規程等に基づき、デリバティブ取引に係る締結業務は経理部門が担当し、契約締結については社内決裁を受けております。なお、当社の金利スワップ取引の契約先は、いずれも信用度の高い国内の金融機関であるため、相手方の契約不履行によるリスクは極めて少ないものであると認識しております。

(5)引当金の計上基準

①貸倒引当金

売上債権等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

②販売促進引当金

新規ユーザー獲得を目的とする、ユーザー還元費用に対する支出に備えるため、サービス提供を開始したユーザーに対し、キャンペーン内容に基づき算出した将来の行使見込額を計上しております。

(6)消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(7)会計方針の変更

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を、当事業年度から適用し、取得関連費用を発生した事業年度の費用として計上する方法に変更いたしました。また、当事業年度の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する事業年度の財務諸表に反映させる方法に変更いたします。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、当事業年度の期首時点から

将来にわたって適用しております。

なお、当事業年度において、財務諸表及び1株当たり情報に与える影響額はありません。

(8)表示方法の変更

該当事項はありません。

(9)会計上の見積りの変更

該当事項はありません。

2. 貸借対照表に関する注記

(1)有形固定資産の減価償却累計額 480,185千円

(2)保証債務

親会社の金融機関からの借入に対し、債務保証を行っております。

会社名	金額
フリービット株式会社	1,716,338千円

上記の内、966,666千円の債務保証については、以下の財務制限条項が付されております。

1. 当社に関する財務制限条項

①当社は、各年度の決算期及び中間期に係る単体の損益計算書上の経常損益に関して、それぞれ経常損失を計上しないこと。

2. フリービット株式会社に関する財務制限条項

①フリービット株式会社は、各年度の第2四半期・本決算期末の単体及び連結損益計算書における経常損益に関して、損失を計上しないこと。

②フリービット株式会社は、各年度の第2四半期・本決算期末の連結貸借対照表における純資産の部の金額を直前の第2四半期又は本決算期末の連結貸借対照表における純資産の部の金額又は平成25年10月末の純資産の部の金額のいずれか大きい方の75%の金額を維持すること。

③フリービット株式会社は、各年度の各四半期の末日における連結貸借対照表における純有利子負債の金額(「短期借入金」、「長期借入金」、「1年内返済予定の長期借入金」、「社債」、「1年内償還予定の社債」、「新株予約権付社債」、「1年内償還予定の新株予約権付社債」、「コマーシャル・ペーパー」及び「割引手形」の合計金額より、当該貸借対照表における「現金及び預金」の合計金額を控除した金額をいう。)を30億円以下にそれぞれ維持すること。

(3) 関係会社に対する債権債務

短期金銭債権	279,676千円
長期金銭債権	5,182,499千円
短期金銭債務	231,644千円

3. 損益計算書に関する注記

関係会社との取引高

営業取引による取引高

売上高 227,801千円

営業費用 1,520,109千円

営業取引以外の取引高 82,438千円

4. 株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 当事業年度末における発行済株式の種類及び総数

普通株式 47,468株

(2) 配当に関する事項

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当金の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成27年6月23日 定時株主総会	普通株式	797,462	利益剰余金	16,800	平成27年3月31日	平成27年6月23日
平成28年2月23日 臨時株主総会	普通株式	300,472	利益剰余金	6,330	平成28年2月23日	平成28年2月29日

2. 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当金の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成28年6月14日 定時株主総会	普通株式	899,993	利益剰余金	18,960	平成28年3月31日	平成28年6月15日

5. 税効果会計に関する注記

(1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産

繰越欠損金	478,613千円
貸倒引当金繰入超過額	30,078千円
減価償却超過額	417千円
未払賞与	7,189千円
有価証券評価損	5,930千円
販売促進引当金	6,176千円
保証金償却	6,099千円
その他	22,245千円
繰延税金資産小計	558,848千円
評価性引当額	△91,916千円
繰延税金資産合計	466,931千円

繰延税金負債

販売促進支援未収金	1,354千円
その他	457千円
繰延税金負債合計	1,811千円

繰延税金資産の純額	465,120千円
-----------	-----------

繰延税金資産の純額は財務諸表の以下の項目に含まれております。

流動資産－繰延税金資産	204,654千円
固定資産－繰延税金資産	260,465千円

(2) 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」（平成 28 年法律第 15 号）及び「地方税法等の一部を改正する等の法律」（平成 28 年法律第 13 号）が平成 28 年 3 月 29 日に国会で成立し、平成 28 年 4 月 1 日以後に開始する事業年度から法人税率等の引下げ等が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の 33.1% から平成 28 年 4 月 1 日に開始する事業年度及び平成 29 年 4 月 1 日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については 30.9% に、平成 30 年 4 月 1 日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異については、30.6% となります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額（繰延税金負債の金額を控除した金額）は 22,709 千円減少し、法人税等調整額が 22,709 千円増加しております。

また、欠損金の繰越控除制度が平成 28 年 4 月 1 日以後に開始する事業年度から繰越控除前の所得の金額の 100 分の 60 相当額に、平成 29 年 4 月 1 日以後に開始する事業年度から繰越控除前の所得の金額の 100 分の 55 相当額に、平成 30 年 4 月 1 日以後に開始する事業年度から繰越控除前の所得の金額の 100 分の 50 相当額に限度額が改正されたことに伴い、繰延税金資産

の金額は 605 千円増加し、法人税等調整額は 605 千円減少しております。

6. リースにより使用する固定資産に関する注記

貸借対照表に計上した固定資産のほか、サーバー、ルーターなどのネットワーク関連機器の一部については、所有権移転外ファイナンス・リース契約により使用しております。

7. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

当社は、資金運用については短期的な預金等に限定し、資金調達については銀行借入による方針であります。

売掛金及び未収入金に係る顧客の信用リスクは、期日管理及び残高管理を定期的に行い、リスクの低減を図っております。

貸付金に係るリスクは、貸付先ごとの期日管理及び残高管理を行うと共に、定期的に貸付先の財務状況を把握することにより、回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

投資有価証券は主として債券であり、四半期毎に時価を把握し、適宜、保有状況を見直しております。

営業債務である買掛金及び未払金は全て1年以内の支払期日であります。

借入金のうち、短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であります。

長期借入金(原則として5年以内)及びファイナンス・リース取引に係るリース債務は主に設備投資に必要な資金調達を目的としたものであり、このうち一部の長期借入金の金利変動リスクに対して金利スワップ取引を実施して支払利息の固定化を実施しております。なお、デリバティブ取引は社内管理規程に基づき実施しております。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

平成28年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位：千円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	2,333,392	2,333,392	—
(2) 売掛金	569,513	569,513	—
(3) 未収入金	1,051,775	1,051,775	—
(4) 短期貸付金	250,000	250,000	—
(5) 長期貸付金	5,086,250	5,086,250	—
(6) 投資有価証券	482,991	482,991	—
(7) 買掛金	(33,200)	(33,200)	—
(8) 未払金	(1,312,643)	(1,312,643)	—
(9) 短期借入金	(200,000)	(200,000)	—
(10) 1年内返済予定の長期借入金	(50,000)	(50,000)	—

(11)リース債務	(*2)	(72,055)	(69,968)	(△2,086)
(12)デリバティブ取引		—	—	—

(*1) 負債に計上されているものについては、()で示しております。

(*2) 流動負債のリース債務と固定負債のリース債務を合算して表示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法

(1) 現金及び預金、(2) 売掛金、(3) 未収入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4) 短期貸付金、(5) 長期貸付金

短期回収及び変動金利のため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(6) 投資有価証券

これらの時価は取引金融機関から提示された価格によっております。

(7) 買掛金、(8) 未払金、(9) 短期借入金、(10) 1年内返済予定の長期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(11) リース債務

これらの時価については、元利金の合計額を、新規に同様のリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(12) デリバティブ取引

①ヘッジ会計が適用されていないもの

該当するものではありません。

②ヘッジ会計が適用されているもの

ヘッジ会計の方法ごとの決算日における契約額または契約において定められた元本相当額等は次のとおりであります。

(単位：千円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等		時価	当該時価の算定方法
				うち1年超		
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定 受取変動	長期借入金	50,000	—	(*)	

(*) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。(上記(8)参照)

8. 関連当事者との取引に関する注記

親会社及び法人主要株主等

(単位：千円)

種類	会社等の名称	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
親会社	フリービット株式会社	被所有 直接 100.0	インターネット接続事業における業務提携	業務受託収入*1	227,801	売掛金	21,142
				専用回線の賃借及びクラウドサービス費用*1	979,004	未払金	98,780
				事務所の賃借*2	84,916	未払金	18,959
						差入保証金	96,249
				業務委託の支払*1	169,134	未払金	9,320
			カスタマーサポートサービス*1	268,884	未払金	24,110	
			役員の兼務等	金銭の貸付*3	11,774,468	短期貸付金	250,000
						長期貸付金	5,086,250
				利息の受取*3	82,258	—	—
				債務保証*4	1,716,338	—	—
				被債務保証*5	250,000	—	—
	債権回収代行*1	482,920	未払金	37,430			

(注) 1 取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2 取引条件及び取引条件の決定方針等

*1：当社と特別の関係を有しない他社との条件を参考に、協議の上決定しております。

*2：親会社における第三者からの賃借料に基づいて決定しております。

*3：金銭の貸付については、貸付利率は市場金利を勘案して合理的に決定しております。なお、担保の提供は受けておりません。

*4：債務保証については、保証料は受領しておりません。

*5：被債務保証については、保証料の支払いは行っておりません。

9. 1株当たり情報に関する注記

1株当たり純資産額 180,559円88銭

1株当たり当期純利益 26,978円53銭

10. 企業結合等に関する注記

[ServersMan SIM LTE 事業の吸収分割]

1. 結合当事者企業の名称及びその事業の内容、企業結合日、企業結合の法的形式、結合後企業の名称及び取引の目的を含む取引の概要

(1) 事業分離企業の名称及びその事業の内容

(分離元企業)	名称	株式会社ドリーム・トレイン・インターネット
	事業の内容	インターネット・サービス・プロバイダー

(分離先企業)	名称	トーンモバイル株式会社
	事業の内容	インターネット通信事業

(2) 対象となった事業の内容

ServersMan SIM LTE 事業

(3) 事業分離日

平成 27 年 10 月 1 日 (効力発生日)

(4) 企業結合の法的形式

株式会社ドリーム・トレイン・インターネットを分割会社とし、トーンモバイル株式会社を承継会社とする吸収分割であります。

(5) 分離先企業が承継する権利義務

ServersMan SIM LTE 事業に係る資産、負債、その他の権利義務であります。

(6) 取引の目的を含む取引の概要

今後さらなる成長が見込まれるモバイル市場において、迅速な事業拡大とサービスの拡充を進め、トーンモバイル株式会社による TSUTAYA をはじめとした販売チャネルの活用などによりさらなる発展と市場シェアの拡大を目指すため、本吸収分割により事業の効率的運用や、更には今後予定される各種提携においての自由度を担保することを目的としております。

2. 実施した会計処理の概要

(1) 移転損益の金額

事業譲渡益 250,000 千円

(2) 移転した事業に係る資産及び負債の概算額並びにその主な内訳

流動資産 28,238 千円

流動負債 22,960 千円

(3) 分離した事業に係る損益の概算額

	累計期間
売上高	161,146千円
営業利益	50,811千円

11. 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。